

平成15年3月新見公立短期大学大韓民国学術交流団派遣報告

原田 信之 石田 純郎 重信 早織*
森本 順子* 山田衣里子* 道田 理恵**

海外学術交流

A Report of the Niimi College Official Delegation to Department of Japanese,
Tongmyong College in Republic of Korea in March 2003

Nobuyuki HARADA Sumio ISHIDA Saori SHIGENOBU
Junko MORIMOTO Eriko YAMADA Rie MICHIDA
(2003年11月5日受理)

1、概 要

平成15年(2003)3月、新見公立短期大学では海外学術交流団として1組を大韓民国に派遣し、学術交流を行った。本報告は大韓民国に派遣された学術交流団の報告書である。韓国学術交流団の日程は平成15年3月24日(月)～3月30日(日)までで、参加者は教員2名(団長・石田純郎、原田信之)と学生4名(重信早織、森本順子、山田衣里子、道田理恵)の計6名である。概要は以下の通り。

3月24日(月)岡山空港出発、大韓航空で仁川国際空港着。

ソウル市内見学。

3月25日(火)釜山の東明専門大学日本語学科を訪問。

3月26日(水)晋州史跡研修。

3月27日(木)順天史跡研修。

3月28日(金)順天史跡研修。

3月29日(土)ソウル市内見学。

3月30日(日)仁川国際空港出発、大韓航空で岡山空港着、解散。

以下、東明専門大学訪問、史跡研修の各項目ごとに概略を述べる。

2、東明専門大学訪問

3月25日(火)は東明専門大学日本語学科(Department of Japanese, Tongmyong College)を訪問した。午前9時、特急列車(セマウル号)でソウル駅を出発し、午後1時半頃釜山駅に到着した。午後2時半頃、学科長の韓鐸哲(ハン タク チョル)教授と鄭教授が乗用車で交流団一行が宿泊しているホテルまで迎えに来てくださり、午後3時頃、東明専門大学に到着した。まず日本語学科オフィスで、韓鐸哲教授、金永好(キム ヨン ホ)教授および鄭教授の3名に挨拶した。学生4名はすぐ日本語学科の各教室に1名ずつ参加し、韓国の学生たちと日本語で自由に会話する機会を持った。

韓国の専門大学は、米国のコミュニティカレッジや日本の短期大学に相当する高等教育機関である。東明専門大学は、1979年3月に開学し、地域への有能な人材の供給を目的として、実践的知識

*新見公立短期大学看護学科学学生

**新見公立短期大学幼児教育学科学学生

と技能の専門教育を行っている。大学には建築、情報、機械、経営などの17学科がある。

日本語学科（2年制）のめざす教育目標は、最近の韓日間交流の深まりに合わせた実践的な日本語教育と、旅行社やホテル、商社などで働く人材の育成である。日本の地理、社会、経済、文化についての実践的な知識を使って、listening、speaking、readingそしてwritingの技能を学生たちに身につけさせている。

講義終了後、本学学生たちは、授業で知り合った東明専門大学の学生たちの導きで学内見学および釜山市内見学を行った。本学学生1名に対して韓国の学生5～6名となるように4つのグループが作成され、グループ分けが決められると、それぞれのグループが別々に釜山市街へ出発して行った。学生たちはそれぞれ、巷の文化交流を行い、その後、宿泊先ホテルまで韓国の学生たちに送り届けてもらった。韓国学生たちの日本語レベルはさまざまであったが、日本語をよく話せる学生が通訳しながら本学学生との会話を積極的に試み、本学学生と子ども交流を楽しんだようだった。本学学生は、韓国の学生たちの親切なもてなしに感激していた。

一方、教員2名は日韓文化懇話会釜山ワークショップへ参加した。石田が「韓国印刷文化の日本への影響」を、原田が「日本文化と韓国文化」を講演した。韓教授、金教授、日本人小出亜弥講師も参加し、種々の問題について懇談し、たいへん有意義な時間を持った。

以下、交流団に参加した学生4名に「韓国の大学生と交流して」というテーマで書いてもらったレポートを掲載する。なお、学年表記は交流時のものとした。

看護学科2年次生 重信早織

私は、今回の旅行で釜山の日本語学科の学生と会えるのを、とても楽しみにしていました。始めに、クラスで一人で話す機会があり日本語で会話のやりとりを行いました。みんな、日本語がとても上手でした。

その後、2年生の6人と釜山の町を案内してもらいました。魚市場、カラオケなどに行き、とて

も楽しい時間を過ごしました。私は、韓国語を話せませんが、日本語でコミュニケーションがはかれるので、いろいろな話をしました。なかなか他国の、同年代の人と友達になる機会はないので、これを機会にメールのやりとりをして、もっと韓国のことを知りたいです。

韓国に着いたとき、日本と韓国はあまり変わらないと思いましたが、みんなと接していると、生活や文化の違いを感じるが多かったです。

韓国では、高校で日本語を習うほど、日本は人気のある国だそうです。日本はきれいで、人が親切な国だと言っていました。今回、韓国の良いところ、また、日本の良いところも、あらためて実感することができました。

韓国へ行き毎食のように野菜を食べ、もちろんキムチのような辛いものも多くて、さらに、歩く距離が長いので、とても健康になった気がします。次に韓国に行く時は、ハングルを勉強して行こうと思います。

看護学科2年次生 森本順子

今回の韓国への旅行は、私にとって初めての海外旅行でした。海外に行くんだ！と意気込んでいたけど、韓国の町並みや人々の外見は日本とあまり変わらなくて、外国にいるという実感がありませんでした。でもやっぱり文化や習慣などに違いがあって、その違いを体験する度に驚いたり新鮮な気持ちになったりしました。

この7日間の中で、釜山の東明専門大学日本語学科の学生と交流する日がありました。初めにひとりずつ1つの教室に入って学生と話をしました。みんなが私の周りに集まって話しやすい雰囲気を作ってくれて、楽しく話をすることができました。日本語がうまい人、うまい人それぞれだったけど、みんな一生懸命に聞こう、伝えよう、としてくれました。教室での交流の後、6人の学生が町を案内してくれました。みんなでショッピングをしたり、みんながよく行くという店で食事をしたりしました。みんなとても親切で、みんなの韓国流もてなしに感激しました。韓国では男の子も女の子もおばさんも、友達同士で手をつないだり腕を組んだりして歩くそうなの

で、私もみんなと手をつないで町を歩きました。短い時間だったけど仲良くなれて、すごく楽しい時間でした。

看護学科2年次生 山田衣里子

今回の韓国旅行の中で一番思い出に残ったのが、釜山で日本語学科の学生と交流できたことでした。夕方学生と釜山の町を歩いていて、日本人とは違うなあと感じることがたくさんありました。まず、私と同じ年でも、韓国の歴史や現在の社会についてよく知っているということ。地下鉄などで高齢者にすぐ席を譲り、優先座席に若い人があまり座らないこと。人がとても親切で、知らない人にでも普通に話し掛けること。そのような韓国の人を見て、日本人として恥ずかしいなあと感じました。

国際市場を歩いている時、学生に何回も「何か気に入るものはあった？」と聞かれました。あまりにも何回も聞かれて、「私も何か買わないと！」と焦ってしまいました。その時、学生に「私達は、えりこさんが好きなので何かプレゼントしたいんです。だから気に入るものはないか聞いています。」と言われて、そのように思っていたくれたことに感激しました。このことが今回の韓国旅行で一番うれしい出来事でした。

韓国に初めて行き、韓国の人の人柄が大好きになりました。釜山の学生とはこれからも連絡をとっていききたい、またどこかで会えるといいなあと思います。

幼児教育学科1年次生 道田理恵

私は韓国どころか海外に行くのも初めてで、飛行機に乗るのも初めてでした。何もかもが初めての旅行でした。この旅行の二日目に釜山の日本語学科の学生と交流をしました。初めに、この研修旅行に行った私を含めた4人が一人づつ各クラスに入っているいろんな話をする場を設けてくださっていました。そこで私は自己紹介をして、その後、日本についての質問を受けました。その時に学校の名前を聞かれて黒板に書いてというので漢字で書いたらオー！という歓声がおこりました。私にとっては、普段書き慣れた日本語を書

いただけだったのでびっくりしました。どんどん質問が出る中、学生のほうから聞きたい事はないかと聞かれたので、なぜ日本語を習いたいと思ったのかと聞くと、日本に興味がある、日本に住みたい、日本の音楽に興味があるなどの理由が返ってきました。こうして質問のやりとりをしているうちに時間がきてこんどは何人かの学生と一緒に行動をして、釜山を案内してもらいました。学生はみんなほんとに親切にしてくれました。ご飯を食べるときはこうやって食べるんだよと食べ方を教えてくれたり、疲れてない？ 楽しい？ などと声を掛けてくれたりよく気を使ってくれました。最後に別れる時は辛かったけど、アドレスの交換をしたのでメールのやり取りなどをして交流を続けていきたいと思います。私も韓国語を勉強して（辞書も買ったし）、また韓国に行って今度は韓国語で話をしてみたいと思います。今回の旅行でいろいろな経験もできたとし、勉強にもなったので参加出来て良かったなと思います。また機会があればこういった旅行に参加したいと思います。

3、史跡研修

3月26日（水）から3月28日（金）までは、韓国南部地方各地（慶尚南道）で史跡研修を行った。

3月26日（水）は朝に釜山を出発し、バスで晋州（チンジュ）に行った。晋州は慶尚南道の南西部、南江の流域にある都市である。晋州城や義妓論介祠堂、国立晋州博物館などを見学した。

3月27日（木）は朝に晋州を出発し、バスで順天（スンチョン）に行った。順天は全羅南道南東部の都市で、全羅線と光州線の交差点に当たる交通の要地である。順天のバスステーションでバスを乗り換えて、全羅南道求礼邑智異山にある華嚴寺（ファオムサ）に行った。549年の創建と伝えられる有名な古刹である。16世紀末兵火のため焼失したが、1630年碧巖が再建したとされる。この日、一行は晋州で宿泊した。

3月28日（金）は順天市が2002年秋から無料で行っている観光バスに乗り、樂安（ナクアン）民

俗村、松広寺（ソングワンサ）、仙岩寺（ソンアムサ）と、終日順天の史跡を見学した。樂安民俗村は、朝鮮王朝末期の農村の姿をとどめる約200戸の藁葺屋根の集落全体をそのまま残した民俗村である。あまり知られていないため観光客は少ないが、大変すばらしい景観と雰囲気を持つ民俗村であった。松広寺は韓国三大寺刹のうちの1つで、僧宝寺刹として著名である。仙岩寺は百濟時代に創建されたと伝えられる古刹の1つであるが、文祿慶長の役（壬辰の乱）で炎上し、後に再建されたという。各地に日本語ガイドの方がおり、十分な説明を受けたため、快適な見学ができた。

3月29日（土）は朝に順天駅を出発して列車でソウルに戻り、ソウル市内を見学した。

4、おわりに

以上で平成15年3月に実施された新見公立短期大学大韓民国学術交流団派遣についての報告を終える。アメリカ・イギリスとイラクとの戦争が開始された直後の訪問であったため、空港のチェックは厳重で、韓国のテレビでも連日戦争のニュースが放映されていた。こうして、新見公立短期大学大韓民国学術交流団は、多くの成果を得て帰国した。今後とも両国間の各種交流がさらに広がることを願うものである。

最後に、東明専門大学日本語学科の皆様、訪問時お世話になった多くの韓国の皆様、新見公立短期大学関係者の皆様、訪問団派遣にご協力いただいた本学難波正義学長にお礼申し上げます。特に、大変お世話になった東明専門大学日本語学科の韓鐸哲教授、金永好教授および鄭教授に深甚の謝意を表します。